

# 入選作品紹介

◇優秀賞 中学生の部◇  
働く母の姿を見て

中学3年 吉橋さん

「母は強い」と思うことは、ありませんか。私はすごくそう思います。私の母は私と姉のために毎日、働いています。朝も夜も働いているので、とても心配です。朝の1つ目の仕事を終えると夕方頃に家に帰宅します。そして休む暇もなく、夕食を食べると夜の2つ目の仕事へ出勤します。

休みもあまりありません。そんな母は疲れも見せずに、家事もテキパキとこなす人です。

しかし「いつか本当に倒れてしまうのではないか。」と最近も不安です。なぜならこの間、母が左足を骨折してしまったからです。この怪我によって仕事の量も減らさなくてはいけなくなりました。私にとっては嬉しいことですが私達を養うためには厳しいようでした。また、食事の準備などの母がやってくれていたことも私がやらざるおえなくなりました。そんな時、私は「家事」という仕事の大変さを実感しました。どれも面倒なことばかりで、思わずため息が出てしまうものばかりでした。しかし、それを何年間も365日、休まずしてくれていたのだと思うと、「すごい・・・。」という一言しか出てきません。それを同時に感謝しなければならぬと強く感じました。また弱音も吐かずに、仕事も家事も両立していた母はなんだかとてもす

ごい女性に見えました。「家事」という小さく見えていた仕事は、本当はとても大きな仕事でした。そう考えると大きな仕事を3つも持つ母はやっぱり最強だと思います。この体験から今まで色々な面で愛情を注ぎ、一生懸命私達のために働いてくれた母のために、恩返しとして「毎日頑張ろう」と決意することが出来ました。

私から見て「働く母」はとっても大きい人です。そして、強くたくましいです。「働く」ということは何かを犠牲にするかもしれません。でも大切な人のため、自分自身のためにすることなのだ気づきました。どんなに大変で辛くても働く人の姿は、とても素敵です。応援したくなります。そして自分も頑張ろうという気持ちにさせてくれます。誰かのために歯をくいしばってでも一生懸命に働くことが、本当の「働く」ということだと思います。すべての人が働く人の姿を見て、思うことがあるはずで、それは、どれも「頑張っているなあ」と感じる姿ばかりだと思います。そんな風に、頑張っている人の姿を見るからからこそ、私達は今頑張れているのかもしれない。「働く姿」があるからこそ、前へ進めているのです。だから私にとって、「働く母の姿」はなくてはならない姿です。今後もその姿を見続けて私自身、精進していきたいです。そしていつか私も社会人として働き出て、周りの人に希望や勇気を与えられるような立派な大人になります。

## 沖縄平和行動

8月26日～28日、4産別・2地協から12名と事務局2名が参加しました。

今派遣団は、日米安保50年の節目であることから独自団とし、多くの犠牲者や被害をもたらした南部を中心に戦跡を巡りました。

1日目は、旧海軍司令部壕などを見学し、当時の司令官室や幕僚が自決した部屋など、手榴弾の弾痕が残る悲惨な光景を目の当たりにしました。

2日目は、バス移動中もガイドさんから当時の悲惨な状況の説明を受けながら、①平和祈念公園、②ひめゆりの塔、③アブチラガマなどを見学しました。平和祈念公園では、群馬県出身の沖縄戦戦没者約900名と南方諸地域戦没者約3万名の慰霊と世界平和を祈念して建立された群馬の塔に、折り鶴1万8千羽を献納し、当時の悲惨な状況を見聞きするとともに恒久平和への思いを共有しました。



ひめゆりの塔を見学



群馬之塔の前での参加者

## 根室平和行動

9月10日～13日、7産別・1地協から12名と事務局2名が参加しました。

連合の4つの平和行動の本年最後となる根室平和行動は、北方領土の早期四島一括返還を求めて納沙布岬での集会をメインに開催されました。

北方四島交流センターでは、5つのセミナーが設定され行われました。納沙布集会では、連合本部古賀会長から「旧ソビエトの不法占拠から65年と長期化しているが、連合は北方四島の一括返還を求め国民運動の中心的役割を果たしてきた。皆さんが語り部となり、四島一括返還に向け頑張ることを共有したい」と挨拶がありました。

その後、元島民の訴えや平和メッセージ、集会アピールが採択され、四島一括返還運動の継続と強化を確認しました。



セミナー参加で現状を把握



ノサップ集会会場前での参加者